

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	専門演習Ⅱ		
担当者(Instructors)	今瀬 政司	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)
この演習では、「社会的課題の解決と地域づくり」をテーマに学ぶ。社会の問題で困っている人を助けたり、課題解決を図ったり、地域を活性化する活動やビジネスを行う団体・企業・行政機関があり、人たちがいる。本授業では、①「社会的課題の解決と地域づくり」について、知識・事例・実践ノウハウを学ぶ。②ゼミ生自らが自由に希望する課題テーマについて、調査研究や実践活動を行って、卒業論文を執筆する（3年生で中間、4年生前期に初稿、後期に推敲・完成）。③地域の現場や団体・企業・行政機関等を訪問して学外活動を行う。④授業を通じて、就職活動の知識・スキル（企業・団体・行政機関（公務員））や実践的なビジネススキル（受け止める力、表現する力、協働する力等）を身につける。将来の就職活動や企業・団体・行政機関等に勤める上で実際に役立つ知識・ノウハウとスキル（生きる力、働く力）の基礎を身につけて「成長すること、自らに「自信を持てる」ようになることを目標とする。授業形態は、原則各回を対面とするが、必要に応じて事前に連絡した上でオンラインで行う場合がある。

■授業形態・授業の方法(Class form)	
授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	講義形式の学習、文献資料等による調査研究、学外でのフィールドリサーチや実践活動等を行いながら、プレゼンテーション（スライド型・会議型・対話面接型等）やディスカッション、グループワークの機会も取り入れる。様々な時事問題や雑学、受講者の問題意識なども積極的に取り上げる。学習や進路・就職活動・学内外活動等での個別相談も必要に応じて行う。担当教員は、シンクタンク企業や多くの民間非営利組織等に所属して、様々な実践活動や国・自治体の政策形成に携わってきていることから、その具体的な実務経験を紹介することで、リアリティを持って実践イメージを持てるようにする。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション	演習の内容・進め方・課題・成績評価方法等。「社会的課題の解決と地域づくり」の学習と卒業論文研究の概要	□
第2回	学習と卒業論文研究の計画	「社会的課題の解決と地域づくり」の学習と卒業論文研究の計画、個別面談	□
第3回	「社会的課題の解決と地域づくり」の応用(1)：知識・事例	社会的課題の解決と地域づくり（地域課題の解決や地域活性化）に関する知識・事例	□
第4回	「社会的課題の解決と地域づくり」の応用(2)：実践ノウハウ	社会的課題の解決と地域づくり（地域課題の解決や地域活性化）に関する実践ノウハウ	□
第5回	文献調査と先行研究のスキル(1)：具体方法	文献調査と先行研究の多様な具体的方法	□
第6回	文献調査と先行研究のスキル(2)：根拠情報	文献調査に係る根拠情報と一次情報の収集スキル	□
第7回	フィールドリサーチと実践活動のスキル(1)：ヒアリング等	社会・地域現場でのフィールドリサーチ、ヒアリング調査、アンケート調査等のスキル	□
第8回	フィールドリサーチと実践活動のスキル(2)：参与観察等	社会・地域現場でのフィールドリサーチ、実践活動・参与観察等のスキル	□
第9回	学術論文執筆のスキル(1)：構成・様式	卒業論文の構成と様式、学術論文の作法	□
第10回	学術論文執筆のスキル(2)：出典表記	学術論文の作法、引用・参考文献の出典表記ルール	□
第11回	実践的なビジネススキルの応用(1)：受発信力	様々な実践的なビジネススキル（受け止める力、表現する力等）の応用、就職活動の知識・スキル（企業・団体・行政機関）	□
第12回	実践的なビジネススキルの応用(2)：連携・協働力	様々な実践的なビジネススキル（連携・協働する力等）の応用、就職活動の知識・スキル（企業・団体・行政機関）	□
第13回	プレゼンテーションの応用(1)：スライド型	卒業論文（中間）のプレゼンテーション（スライド型等）とディスカッション、グループワーク	□

第14回	プレゼンテーションの応用(2)：対話・面接型	卒業論文(中間)のプレゼンテーション(対話・面接型等)とディスカッション、グループワーク	☐
第15回	学習と卒業論文研究の総括	学習と卒業論文研究の振り返りと総括、自己評価と他者評価、個別面談	☐

■授業時間外学習(予習・復習)の内容(Preparation/review details)
自らの興味や考えを大事にしながら、授業時間外でも積極的に学びを深め、調査研究や実践活動を行い、課題に取り組むこと。自身で分からない疑問等は、積極的に教員に質問・相談等を行うこと。(事前・事後で4時間程度)

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)
演習テーマに関連する様々な時事問題や雑学、受講者の問題意識に関連した事柄についても積極的に取り上げる。演習での学びや課題のほか、進路・就職活動や学内外活動等の相談にも乗り個別面談アドバイスを行う。状況に応じて、学習・取組みの成果をホームページ等で情報発信することがある。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)		
区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
主体性	◆ 2021地域ビジネスDP3	実社会で役立つ知識・ノウハウと実践的なスキル（受け止める力、表現する力、協働する力等）の基礎を身につけることができる。授業期間を通じて自らが「成長する」こと、自らに「自信を持てる」ようになることを目標とする。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			30%	70%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

その他：授業期間中の卒業論文とレポート。積極的に学びを深め、調査研究や実践活動を行い、課題に取り組んで「成長しているか」、実社会で役立つ知識・ノウハウやスキルを身につけて「成長しているか」等について、授業状況や提出課題で公平に点数化して総合的に評価する。原則、各回授業に出席することで出席扱い。

■テキスト(Textbooks)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	授業中に説明する。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN (ISBN)
1	今瀬政司（2011）『地域主権時代の新しい公共 希望を拓くNPOと自治・協働改革』学芸出版社	
2	演習テーマに関連した参考文献や実践的な活動情報等を随時紹介する。	
3		
4		
5		